

デジタル田園都市国家構想の実現に向けた
第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(素案)

令和7年〇月

目次

I 総合戦略の策定にあたって

1 はじめに	1
2 第3期総合戦略の位置付け	1

II 基本的な考え方

1 計画期間	2
2 国と山梨県の総合戦略との関係性	2
3 第3次南アルプス市総合計画との関係性	3
4 南アルプス市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンとの関係性	3
5 第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括	5
6 第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性	9
7 官民協働と連携強化	9
8 PDCAサイクルの構築と検証	10
9 財源の確保	10

III 地域ビジョン(目指す姿)と基本目標

1 地域ビジョン(目指す姿)	11
2 基本目標	12

IV 基本目標の方向性と施策の展開

基本目標Ⅰ やりたい仕事ができるまちづくり

施策1 地域産業の振興	14
施策2 企業誘致の推進	14

基本目標Ⅱ 行ってみたくなるまちづくり

施策3 観光の振興	16
施策4 シティプロモーションの推進	16
施策5 移住・定住人口の拡大	16

基本目標Ⅲ 子育てしやすいまちづくり

施策6 子育て支援の充実	18
施策7 教育の充実	18

基本目標Ⅳ 生涯活躍できるまちづくり

施策8 福祉の充実	20
施策9 健康づくりの推進	20
施策10 みんなでまちづくりの推進	20

基本目標Ⅴ 魅力ある住みたいまちづくり	
施策11 住環境の整備	22
施策12 持続可能なまちづくりの推進	22
横断的取組 新しい時代の流れを力にするまちづくり	
横断的取組① デジタル技術の活用.....	23
横断的取組② 時代に即した自治体運営	24

I 総合戦略の策定にあたって

1 はじめに

本市では急速な人口減少社会に対応するため、本市の目指すべき人口展望を示す「南アルプス市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(対象期間:2060年まで。以下「市人口ビジョン」という。)」を策定し、平成27年(2015年)10月に「第1期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、令和2年(2020年)3月に「第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生の取り組みの一層の充実・強化を図ってきました。

国においては、令和4年(2022年)6月に新たな指針となる「デジタル田園都市国家構想基本方針(以下「国基本方針」という。)」が示され、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指すデジタル田園都市国家構想の実現に向けて、同年12月には「デジタル田園都市国家構想総合戦略(以下「国総合戦略」という。)」が策定されました。

こうした状況のなか、本市の最上位計画である「第3次南アルプス市総合計画(以下「市総合計画」という。)」の将来像「人がつどい 次世代につなぐ 活力あふれるまち」を踏まえ、これまでの取り組みを振り返りつつ、更なる本市の活性化に向け「デジタル田園都市国家構想の実現に向けた第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「市総合戦略」という。)」を策定します。

2 第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

第3期総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法第10条の規定に基づく、本市のまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本計画として位置づけられるものです。

国や県が定める総合戦略を勘案しつつ、本市の最上位計画である「市総合計画」や「市人口ビジョン」との整合性を図りながら、地方創生に向けた施策を展開します。また、デジタルの視点を取り入れた地域の活性化についても取り組みを強化していきます。

【まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)】

(市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略)

第10条 市町村は、まち・ひと・しごと創生総合戦略(都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略が定められているときは、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略)を勘案して、当該市町村の区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画(次項及び第三項において「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」という。)を定めるよう努めなければならない。

2及び3 略

Ⅱ 基本的な考え方

1 計画期間

令和 7 年度(2025 年度)から令和 11 年度(2029 年度)までの5年間

2 国と山梨県の総合戦略との関係性

国や山梨県が策定したデジタル田園都市国家構想総合戦略の施策の方向性を勘案し、南アルプス市における人口減少と地域経済縮小を克服し、まち・ひと・しごと創生の好循環を目指します。

【国のデジタル田園都市国家構想総合戦略(抜粋)】

1. デジタルの力を活用した地方の社会課題解決
(デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化)
 - ① 地方に仕事をつくる
 - ② 人の流れをつくる
 - ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - ④ 魅力的な地域をつくる
2. デジタル実装の基礎条件整備
(デジタル実装の前提となる取組を国が強力に推進)
 - ① デジタル基盤の整備
 - ② デジタル人材の育成・確保
 - ③ 誰一人取り残されないための取組

【山梨県総合計画(まち・ひと・しごと創生総合戦略)(抜粋)】

◎まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標

- | | |
|-------|----------------------------------|
| 基本目標1 | 魅力あるしごととこれを支える人材をつくる |
| 基本目標2 | 山梨への新しいひとの流れをつくる |
| 基本目標3 | 結婚・出産・子育ての希望がかない誰もが活躍できるやまなしをつくる |
| 基本目標4 | 時代に合った地域をつくり、暮らしを守る |

◎基本戦略

- | | | |
|-----|---|----------------|
| 戦 略 | 1 | 強靱な「やまなし」を創る道 |
| 戦 略 | 2 | 活力ある「やまなし」を育む道 |
| 戦 略 | 3 | 開かれた「やまなし」へ集う道 |
| 戦 略 | 4 | 躍動する「やまなし」へ進む道 |
| 戦 略 | 5 | 先進地「やまなし」を叶える道 |

3 第3次南アルプス市総合計画との関係性

市総合計画は、令和7年度を始期とする本市の最上位計画で、本市に暮らす誰もが幸せを実感し、共に感じる事が出来るまちを目指し、総合的・計画的・具体的に推し進めることを目的に策定されました。

市総合戦略では、「まち・ひと・しごと創生」を実現するため、市総合計画の政策体系に基づき、基本計画（施策）と実施計画（事務事業）を組み合わせた「戦略的プロジェクト」を基本目標に対応するものとして位置づけます。

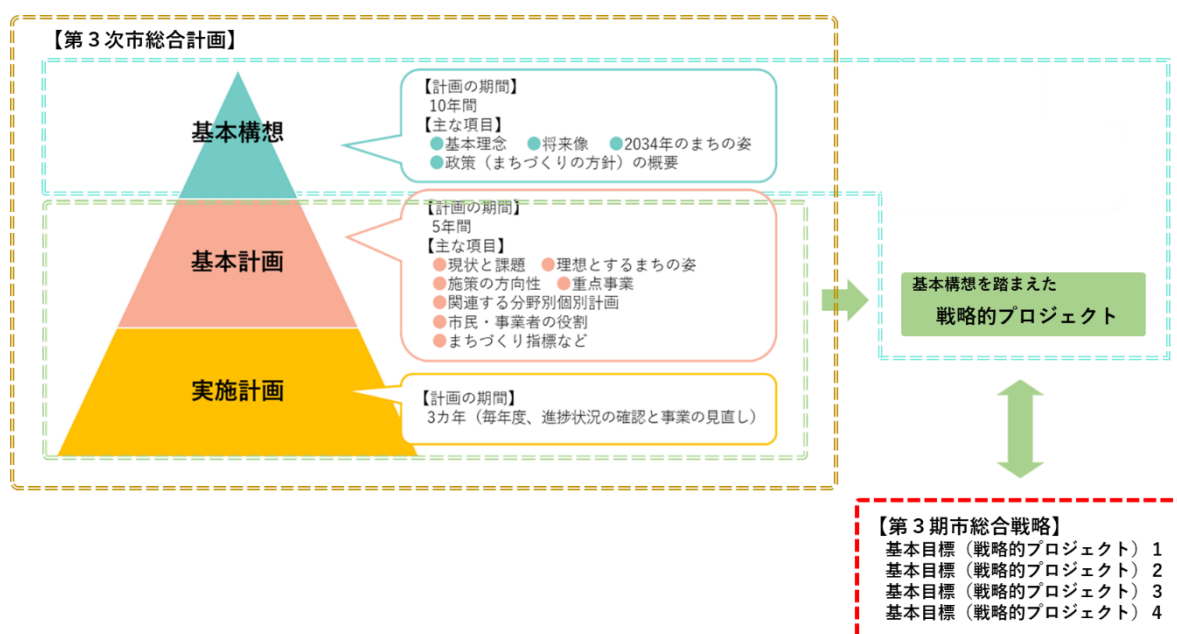


図 市総合計画と市総合戦略との関係性のイメージ

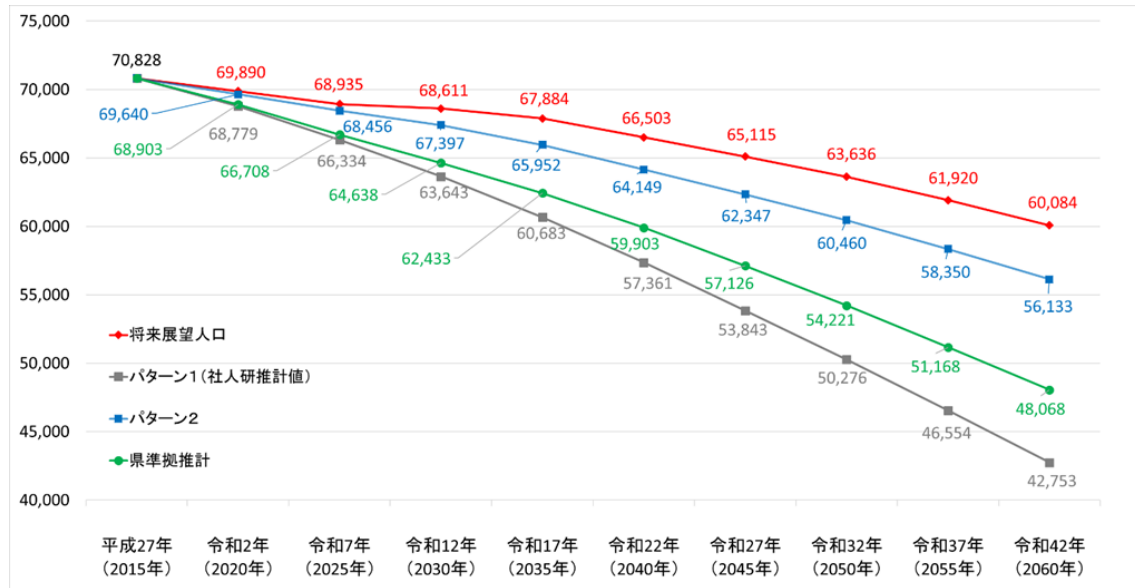
4 南アルプス市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンとの関係性

本市の人口は、平成27年（2015年）の国勢調査時では70,828人となり、平成22年（2010年）の調査時の72,635人と比べ、1,807人減少しています。

さらに、人口ビジョンでの将来人口推計においても、本市の人口は今後も減少が続くとされており、現状のまま推移した場合、令和22年（2040年）には57,361人、令和42年（2060年）には42,753人まで減少するとされています。

今後の人口減少社会への推移は、日本全体の傾向からしても避けがたい状況ですが、人口ビジョンでは、「将来にわたって活力ある南アルプス市」を維持するため、人口の自然増や社会増へつなげる対策を効果的に進めることで約17,000人の人口減少抑制を図り、令和42年（2060年）に60,000人程度の人口を確保することを目指しています。

【将来展望人口と推計人口の比較】



※将来展望人口：出生率 2020 年 1.4、2025 年 1.6、2030 年以降 1.87、2020 年以降は全体的に社会増減を底上げすると仮定した推計。

※パターン1：国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計準拠による推計（平成 27 年（2015 年）までは実績値、令和 2 年（2020 年）以降は全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計）

※パターン2：出生率 2020 年 1.4、2025 年 1.6、2030 年以降 1.87＋移動ゼロ（社会変動を 0 とした場合）

※山梨県準拠推計：出生率 2020 年 1.53、2025 年 1.6、2030 年 1.87、2035 年 1.99、2040 年以降 2.07、社会変動は社人研の推計に準拠。

【目標人口推計の仮定値】

	平成 27 年 (2015 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 7 年 (2025 年)	令和 12 年 (2030 年)	令和 17 年 (2035 年)	令和 22 年 (2040 年)	令和 27 年 (2045 年)	令和 32 年 (2050 年)	令和 37 年 (2055 年)	令和 42 年 (2060 年)
将来展望 人口（人）	70,828	69,890	68,935	68,611	67,884	66,503	65,115	63,636	61,920	60,084
出生率 （％）	1.40	1.40	1.60	1.87	1.87	1.87	1.87	1.87	1.87	1.87
社会増減 （人）		50	50	150	150	100	100	100	100	100

※仮定値の数字は各年度のもの

5 第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括

第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、目指す姿を「魅力と地域力を高め、住みたい・子育てしたくなる「まち」を目指す」と位置付け、4つの基本目標と9つの施策とそれらに対する重要業績評価指標(KPI)を設定し推進してきました。

進捗状況に関しては、毎年、南アルプス市まち・ひと・しごと創生審議会において検証してきました。審議会からの主な評価は以下のとおりです。

- ・重要業績指標(KPI)やアクションプランに基づく各事業においては、一部を除き概ね順調に進んでいると判断できる。
- ・本市の社会増が続いている要因としては、企業誘致や子育て支援策に効果があったものとする。
- ・次期市総合戦略においては、現在の取り組みを強化しつつ、多様な視点で社会状況を注視しながら、推進していくことが重要である。

なお、各基本目標に対する取り組みの評価は、以下のとおりとなります。

基本目標Ⅰ	しごとをつくり、安心して働けるようにする、これを支える人材を育てて活かす
基本的方針	本市に人が集い、また、住み続けたいと思える地域を実現するためには、生活の基盤となる仕事があり、経済的に安定することが重要です。このため、重点施策に位置付けた「企業誘致」を基軸に据え、魅力的な仕事や起業が叶う環境を創出するとともに、本市の将来を支える産業を力強く振興することで地域の稼ぐ力を高め、誰もが安心して働ける地域となるための施策を推進します。
取組状況	(① 地域産業の振興) ・荒廃農地比率については、R4年度は前年度に比べ上昇した。 ・営業所得の申告者数は目標値を達成しているが、前年度に比べると減少している。コロナ禍の長期化や後継者不足等により廃業者が増えた。 ・製造品出荷額は目標値を達成しているが、前年度より減少している。コロナ禍やウクライナ情勢などの影響を受け、原油や原材料価格が上昇したため生産活動が抑制された。 (② 企業誘致の推進) ・南アルプス IC の fumotto 南アルプスの地域交流エリアがオープンし、令和7年度にコストコの開業が予定されている。 ・今回の計画期間中に本市への企業参入が相次ぎ、今後の開業により良質な雇用の創出が期待される。 ・物価の高騰などで先行きを見通せない状況にあるため、新規創業への慎重姿勢が見られた。 ・景気はゆるやかな改善傾向にあるものの、燃料費の高騰や資材価格上昇などにより設備投資などに慎重姿勢が見られた。

評価	(良かった点) ・第2期市総合戦略の中でも最も成果を上げた項目である。 ・シャインマスカットのブランド化の検討を始めたことで、農業従事者の安定した所得へとつながることを期待する。 ・コロナ禍であったにもかかわらず、市内での創業者数が増加している。雇用や人口増に<u>つな</u>がっていく。 ・南アルプスIC周辺や工業団地への更なる企業誘致が期待できる。 (悪かった点) ・農業従事者の高齢化が進んでいるため、新たな人材確保のための支援が必要。他自治体との差別化を図るため、遊休農地や荒廃農地を活用したプログラムや官民連携による販路(インバウンド等)拡大が必要。
----	--

基本目標Ⅱ	新しいひとの流れをつくる
基本的方針	新しいひとの流れをつくるには、地域の魅力を高め、本市に関心を持つ人との交流やつながりを強めることが重要です。このため、重要施策に位置付けた「観光の振興」を基軸に据え、地域の魅力を発信しつつ、地域資源の利活用と観光拠点の整備により、誘客と交流人口の拡大や関係人口の創出を図るとともに、移住定住に結び付けるための施策を推進します。
取組状況	(③観光の<u>振興</u>) ・市内への入込客数は、新型コロナウイルス感染症の蔓延が大きく影響しており、減少傾向にあった。しかし、中部横断自動車道の開通やfumotto 南アルプスの<u>整備</u>などプラスになる要因も続いていることから、比較的増加の傾向が見られる。 (④シティプロモーションの推進) ・シティプロモーション戦略を策定し、戦略に基づいたプロモーションの成果として市HPへのアクセス数が大幅に増加している。 (⑤移住・定住人口の拡大) ・転出者に対し転入者が大幅に増え、目標値より高い実績値となった。 ・転入者は県内からが約6割となっているが、県外からの転入者も増えており、情報発信や移住促進施策への効果が出始めている。
評価	(良かった点) ・シティプロモーションの効果により確実に興味を持たれている方が増えてきている。 ・山岳エリアへの入込客数が増加傾向にあり、今後も期待できる。 ・fumotto 南アルプスの<u>整備</u>により、今後多くの人を訪れることで交流人口の増加が期待できる。 ・企業誘致や子育て支援の充実等の取り組みが移住定住人口の拡大(社会増)につながっている。

	(悪かった点) ・平地への入込客が少なかった。 ・観光地の基盤整備や地域の協力・気運の醸成が必要。滞在型観光を検討するべきである。 ・住みたいと思う市民が少なかった。 ・空き家バンクの成果が年々減少傾向にあるため、活用する手立てを検討した方が良い。
--	--

基本目標Ⅲ	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる
基本的方向	全国的な少子化の傾向と同様に、本市における出生数も減少していることから、出生率の向上などの取り組みを行うことが重要です。このため、特に若い世代が結婚し、妊娠し、安心してこどもを産み育てられる環境の整備を進めるとともに、人が集い住みたいと思えるよう、価値観やライフスタイルの多様化を踏まえながら、誰もが活躍する地域となるための施策を推進します。
取組状況	(⑥子育て支援の充実) ・妊産期から母の気持ちに寄り添いながら、途切れのない育児支援ができる体制の継続強化に努めるとともに、地域や社会が保護者に寄り添い、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげるとともに、保護者が親として成長できるよう支援している。 ・他市にさがかけての未満児の保育料の無償化や子育て支援施策の充実により、安心して子育てできるまちとして認知され、転入意欲の高まりのきっかけとなった。 (⑦多様性社会の構築) ・審議会等の改正時に女性を登用した団体数が増加したことにより、審議会等における女性委員比率は増加した。 ・地域で男女差別を感じている市民の割合、多文化共生社会を知っている市民の割合は若干だが増加している。 ・外国人住民に対して国際交流協会と連携し、地域住民をパートナーとした日本語教室を開始した。また令和6年度からは、姉妹都市との国際交流も再開した。
評価	(良かった点) ・子育て支援策は経済的にも精神的にも効果ありと評価できる。 ・子育て支援の取り組みは、本市の強みとなっている。 ・南アルプス市の子育て支援を知り、定住先に決めている話を聞いた。 (悪かった点) ・多様性社会の取り組みにおいて、大きな成果が見られない。地域コミュニティ(自治会)の形成と多様性社会の構築の両立は難しい。 ・文化財等を活用しシビックプライドの醸成を図った方が良い。 ・新たな視点を踏まえた取り組みが必要。

基本目標Ⅳ	時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本的方向	誰もが住み続けたいと思えるような地域となるためには、質の高い暮らしを確保し、健やかで安心して暮らせることが重要です。このため、自助・共助・公助の考え方を基調とし、暮らしのなかで支え合う関係づくりを進めるとともに、他の地域との連携の視点を持ちながら少子高齢化に適応した地域となるための施策を推進します。
取組状況	(⑧安心な暮らしを守る環境づくり) ・防災リーダーの配置率は、自主防災会への呼びかけによる防災意識の向上により増加したが、まだ地域によって温度差がある。 ・いずれの指標も新型コロナウイルス感染症などの環境要因の影響が大きかった。 ・一方で、コロナ禍だけではなく、令和元年度の平時と比較してみると、全指標とも、増加の傾向にあることから、市民の健康意識は高く維持されている。それゆえ感染症への対策意識も高く、自主的な行動抑制による結果が目標未達の要因と考えられる。 ・コミュニティバス事業については定着しつつあり、年々利用者が増加している。 (⑨自然との共生) ・ユネスコエコパークの認知度が目標値を下回っている理由として、ユネスコエコパークのイメージが、北岳などの高山地帯であり市民には身近なものとして捉えられていないことや、日常的にユネスコエコパークという文字や言葉を目にしたり聞いたりしないことなどが考えられる。 ・市内全 15 小学校での授業やジュニアリーダー研修等にユネスコエコパークに関する学習を取り入れることで、将来にわたる持続と発展に向けた取り組みを推進している。
評価	(良かった点) ・多くの施策が目標値に向けて増加傾向にあった。 ・本施策で取り組まれた事業は、一部を除きすべて必要な事業であるため、内容の充実を図りながら継続するのが良い。 (悪かった点) ・「自主防災会への防災リーダー」は、全自治会に配置できておらず自主防災会の中でも役割が明確となっていない。地域防災力の向上に向けての成果指標としては適切ではない。再検討が必要である。 ・南アルプスIC新産業拠点にすべての誘致が完了した後は、現交通政策では不安がある。 ・ユネスコエコパークの認知度は徐々に上がってきているが、目標に達していない。引き続き周知活動を行っていく必要がある。

6 第3期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性

本市の第1期及び第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みは、「人口減少が経済の縮小につながり、経済の縮小が人口の減少につながる」という負のスパイラルからの脱却を目的としてきました。その成果は前項で示した総括のとおり、着実に現れてきています。この流れを止めることなく更なる好循環を生み出すためには、これまでの取り組みを継承しつつ、目まぐるしく変化する社会情勢に、柔軟に対応していくことが重要になってきます。

また、本市では、令和3年(2021年)に中部横断自動車道(山梨・静岡区間)が全線開通し、市内への企業誘致が進むほか、令和6年(2024年)には fumotto 南アルプスの開業、更には今後のリニア中央新幹線の開通など、地域経済の活性化や関係人口の増加に大きな効果が期待できる状況にあります。

今後計画の5年間は、これらの要素を地域の活力へとつなげていくため、南アルプス IC 周辺 50ha の高度利活用を含む都市的土地利用への転換を図るとともに、デジタルの視点を加えた「企業誘致」「観光振興」「子育て支援」「教育の充実」等の各施策に注力するとともに、多様な人材を招き入れることで好循環を促し、本市の更なる発展につなげていきます。

7 官民協働と連携強化

市総合戦略の策定にあたっては、第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略同様、多様な関係者との「連携」を重視し、関係行政機関をはじめ、市民、産業界、教育機関、金融機関、労働団体、メディア(産官学金労言)、市議会などから構成される有識者会議(南アルプス市まち・ひと・しごと創生審議会(以下「審議会」という。))で、検討を重ねました。

多様な関係者との連携は本戦略の策定のみならず、地方創生を推進する上でも重要な要素のひとつとなります。

このため、市総合戦略に掲げた施策や事業の効果などについても審議会では検証を行うなど、官民一体となった体制で推進していきます。なお、周辺自治体と共に取り組むことにより効率的かつ効果的に進められる可能性があるものについては、広域連携についても模索していきます。

8 PDCAサイクルの構築と検証

本市における市総合戦略の地域ビジョン(目指す姿)を実現するために、PDCA サイクルを確立・運用していきます。

具体的には、人口ビジョンで示した将来展望人口を踏まえ、地域ビジョン(目指す姿)の実現に向けた取り組みに対し「数値目標」や「KPI」などで進捗状況を確認するとともに、審議会による進捗管理を実施して、多角的な評価に努めます。

なお、必要に応じて市総合戦略を見直すことで、より効果的な施策を図っていきます

9 財源の確保

市総合戦略に位置づけた施策及び事業の推進にあたっては、地方創生関連交付金(新しい地方経済・生活環境創生交付金)等や企業版ふるさと納税などをはじめとした各種制度を積極的に活用することに努めます。

また、税収増や新たな雇用の創出が期待できる企業誘致活動を展開し、自主財源の確保に取り組みます。

Ⅲ 地域ビジョン(目指す姿)と基本目標

1 地域ビジョン(目指す姿)

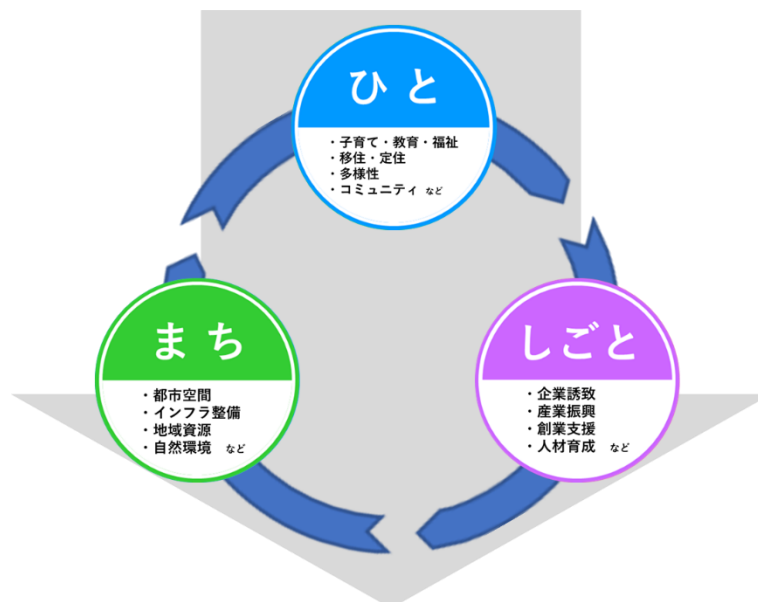
市総合戦略の策定にあたって、本市が抱える課題を明確にし、地域の特色や資源を最大限に活かし、高めるため、以下のとおり【地域ビジョン(目指す姿)】と目標値を設定します。

対象項目	基準値(令和5年度)	目標値(令和11年度)
市人口社会増減数	421 人増	425 人増

2 基本目標

まず、地域ビジョンを達成するためには、本市の魅力を高め、「ひと」を呼び込む必要があります。「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む、この循環が「まち」に活力を与えます。よって、「まち」「ひと」「しごと」を好循環させるため、5つの基本目標と、また、その支えとなる横断的取り組みを設定します。

基本目標	I やりたい仕事ができるまちづくり	横断的取組	新しい時代の流れを力にするまちづくり	
	II 行ってみたくなるまちづくり			
	III 子育てしやすいまちづくり			
	IV 生涯活躍できるまちづくり			
	V 魅力ある住みたいまちづくり			



地域ビジョン（目指す姿）

Ⅳ 基本目標の方向性と施策の展開

基本目標Ⅰ やりたい仕事ができるまちづくり

(1) 基本的方向

本市では、令和2年度の市町村民経済計算報告で示す市内総生産(1年間に市内で産み出された経済的価値を金額で示したもの)において、減少傾向にあった第1次産業が増加に転じたのをはじめ、第2次産業、第3次産業が大きく成長しています。また、企業誘致も進んでいることから、今後もさらなる地域経済の発展が期待されます。

移住定住人口の増加も見込まれる中、継続して住み続けてもらうためには、生活の基盤となる仕事が重要になってきます。お金を稼ぐ「経済性」に加え、仕事を通じ社会の存続や発展に貢献する「社会性」、自分の能力や個性を発揮し自己実現する「個人性」など、働く理由や目的は多様化しています。

基本目標「やりたい仕事ができるまちづくり」では、具体的な施策として「地域産業の振興」と「企業誘致の推進」を位置付け、多様な働く場や雇用を創出し、誰もがやりたい仕事を選択し、安心して働けるまちを目指します。

(2) 数値目標

対象項目	基準値(令和5年度)	目標値(令和11年度)
「南アルプス市では、やりたい仕事を見つけやすい」と思う市民の評価	2.6pt	2.8pt
「暮らしている地域には、新たなことに挑戦・成長するための機会がある」と思う市民の割合	2.7pt	2.9pt

(3) 具体的な施策と主な取組内容

《施策1 地域産業の振興》

「地域産業の振興」では、地域資源を活用した産業育成や地元企業支援、新産業の創出、人材育成を柱とし、地域経済の活性化と雇用創出を目指します。

商工業の分野においては、新規創業や販路拡大、後継者不足の解決を支援し、企業間連携で経済活性化を推進します。さらに、企業ガイダンス等で若者の市内就業を促進し雇用を創出します。**また、南アルプス IC 周辺エリアの整備などを契機に地域経済の発展につなげていきます。**

農林業の分野では、6次産業化や高付加価値化を通じて農業の魅力を高め、安定した所得の確保に努めます。また、新たな担い手の確保や育成、遊休農地の解消等を進めることで、農業の活性化と持続可能な経営基盤を構築するとともに、有害鳥獣対策や森林整備を推進し、安定した農業経営と環境保全の両立につなげます。

(主な取組内容) ① 商工業の振興 ② 農林業の振興

《施策2 企業誘致の推進》

「企業誘致の推進」では、企業の用地需要の増加や中部横断自動車道の開通、リニア中央新幹線の開業を見据え、優良な土地の確保及び整備を進め、県や商工会との情報交換を行いながら、戦略的に企業の誘致活動を推進します。

(主な取組内容) ③ 企業誘致の推進

重点取組	「ひと」と「企業」への支援と誘致による地域開発に向けた取り組み	
事業例	・企業ガイダンス開催事業 ・新規創業者資金借入補助金支給事業 ・創業支援事業 ・勤労者生活安定資金貸付金預託事業 ・商工業事業資金利子補給支援事業 ・小口資金融資保証料支援事業 ・地域ものづくり企業成長投資支援事業 ・環境保全型農業直接支払制度支援事業 ・農業後継者支援事業 ・南アルプスブランド戦略事業 ・就農支援事業	・担い手支援事業 (地域おこし協力隊支援事業) ・新規就農者育成総合対策事業 (農業次世代人材投資事業) ・有害鳥獣被害防止対策支援事業 (特措法) ・森林管理基金事業 ・中高年の新規就農者支援事業 ・南アルプス IC 周辺整備事業 ・産業立地事業費助成金交付事業 など

基本目標Ⅱ 行ってみたくなるまちづくり

(1) 基本的方向

本市では、これまでの人を呼び込むための取り組みやシティプロモーションの成果により、多くの人の関心が高まりつつあります。この流れを新たな人流に結びつけるためには、本市に関心を持つ人との交流やつながりを強化していくことが重要です。

人が集まる理由は、大きく分けて3つあります。ひとつは「好奇心」、人は新しい体験や未知の場所に対して強い好奇心を持ちます。次に「影響力」、多くの人が集まることに特別な価値が生まれ、強い魅力として影響力を持ちます。最後に「安心」、人は自然と安心して過ごせる環境を求めています。

以上のことを踏まえ、基本目標「行ってみたくなるまちづくり」では、具体的な施策として「観光の振興」と「シティプロモーションの推進」を位置付け、本市に興味を持ってもらい、行ってみたいと思えるまちを目指します。また、「移住・定住人口の拡大」に向けた取り組みを通して、住みたい・住み続けたいと思ってもらえる魅力的な地域づくりも進めていきます。

(2) 数値目標

対象項目	基準値(令和5年度)	目標値(令和11年度)
南アルプス市への入込客数	440,393 人	760,000 人
市ホームページへのアクセス数	564,364 件 3,413,402 件	現状値よりも増加させる
「南アルプス市に住み続けたい」と思う市民の割合	69.8%	70.0%

(3) 具体的な施策と主な取組内容

《施策3 観光の振興》

「観光の振興」では、多様化する観光客のニーズに応じたサービスを提供し、持続可能な観光を推進します。また、自然や果樹に加え、歴史的・文化的資源を活用し、観光資源(ソフト・ハード)や観光交通施策の充実を図るとともに、これらを連携させ「面」としての観光を創出することで滞在時間や満足度の向上を目指します。観光情報を効果的に発信し、fumotto 南アルプスを始めとする観光拠点を活用した国内外の交流人口の拡大と観光の活性化を図ります。

(主な取組内容) ① 観光の振興

《施策4 シティプロモーションの推進》

「シティプロモーションの推進」は、地域の魅力を発信し、本市のイメージ向上を目指す取り組みです。観光や産業、文化、保育、教育、福祉など多角的に伝え、地域の誇りを育み、外部からの注目を集めて行ってみたいまちとしての認知を広げていきます。

(主な取組内容) ② シティプロモーションの推進

《施策5 移住・定住人口の拡大》

「移住・定住人口の拡大」では、移住定住支援策を充実させU・I・Jターンを促し定住人口の増加に**つな**げます。地域おこし協力隊の受入れやクライנגルテンの活用により、都市部からの多様な関係人口の創出・拡大を図ります。また、空き家を活用した移住定住へのニーズが高まっていることを受け、空き家利活用に向けた取り組みを強化していきます。その一環として、ワーキングホリデーの受け入れやカフェの開設、民泊や農泊の導入なども検討していきます。

(主な取組内容) ③ 交流と定住促進

重点取組	地域観光の持続可能な運営体制と拠点の整備 および 住みやすい地域づくりを通じた移住・定住促進への取り組み	
事業例	・観光プロモーション事業 ・フルーツ山麓フェスティバル開催事業 ・ふるさとづくり推進事業 ・シティプロモーション事業 ・若者世帯定住支援奨励金事業	・交流定住促進事業 ・結婚新生活支援事業 ・芦安地区地域おこし協力隊事業 ・奨学金返還支援補助金事業 ・ 南アルプス IC 周辺整備事業 など

基本目標Ⅲ 子育てしやすいまちづくり

(1) 基本的方向

本市では、令和4年度に「こども・子育て応援都市」を宣言し、その実現に向けて様々な取り組みを進めたことで子育てがしやすいまちとして評価を得ています。これまでの取り組みを維持しつつ、さらに効果を高めていくためには、これまで以上に、安心してこどもが成長できる環境をつくることが重要となります。

そのためには、結婚の段階で「住みやすさ」や「経済的安定」、出産から子育ての段階で「途切れのない支援」や「教育環境の充実」など、すべてのこどもが安心して成長でき、夢や希望を描ける環境が求められます。

以上のことを踏まえ、基本目標「子育てしやすいまちづくり」では、具体的な施策として「子育て支援の充実」と「教育の充実」を位置付け、若い世代が結婚し、妊娠し、安心してこどもを産み育てられる環境を整えるとともに、児童一人一人の学びを大切にしたい、誰一人取り残さない教育を進めることで、社会全体ですべてのこどもを育み、子育てがしやすいまちを目指します。

(2) 数値目標

対象項目	基準値(令和5年度)	目標値(令和11年度)
「南アルプス市は子育てしやすいまちだ」と感じる市民の割合	52.7%	55.0%
「南アルプス市では、教育環境が整っている」と思う市民の評価	3.5pt	3.7pt
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とする小中学生の割合	78.7%	79.5%

(3) 具体的な施策と主な取組内容

《施策6 子育て支援の充実》

「子育て支援の充実」では、誰もが安心して妊娠・出産し、育児できる環境を整えるため、こどもの成長や家庭環境に応じた相談体制やサービスを充実させます。また、生きづらさを抱えるこどもや保護者が孤立することなく、適切かつ継続的な支援を受けられるよう、関係機関と連携します。社会環境の変化に対応し、安全で安心な地域づくりを推進するとともに、こどもが自らの未来を切り拓く力を家庭・学校・地域社会など地域全体で育みます。加えて、「こども応援部」を新たに設置し、組織体制を充実させることで子育て応援のトップランナーのまちとして更なる発展を目指します。

(主な取組内容) ① 子育て支援の充実 ② 保育環境の充実
③ 子ども家庭相談体制の充実 ④ 母子保健の充実

《施策7 教育の充実》

「教育の充実」では、「豊かな心の育成」に重きを置き、一人一人の学びを尊重し、夢や志を持って可能性に挑戦する力を育みます。そのためには、ICTを活用した学習環境の充実を図り、児童生徒を主体とした個別最適な学びと協働的な学びを推進します。また、歴史や文化資源の保全と活用を両立し、郷土愛や地域への誇りを育む教育を展開します。さらに学校教育と生涯学習が相互に連携することで、誰もが学びたいときに学び、その学習成果を地域社会に活かせる仕組みづくりを目指します。加えて、若者活躍の支援として、リーダーシップを育むプログラムの提供など地域社会と接する機会を設け、また活動拠点となる場を充実することなど、若者に多様な選択肢を用意し、かつ将来の活躍に向けた育成や体験機会の創出に努めます。

(主な取組内容) ⑤ 青少年健全育成の推進 ⑥ 生涯学習の推進
⑦ ふるさと資源の保全と活用 ⑧ 学校教育の充実

重点取組	こどもまんなか、夢や希望を描けるまちの実現と 若者活躍の場づくりと機会の創出に関する取り組み	
事業例	・地域子育て支援事業 ・子ども用品貸出事業 ・子ども医療費助成事業 ・病児・病後児保育事業 ・児童手当給付金事業	・新生児おむつ代支給事業 ・ジュニアリーダー養成事業 ・生涯学習事業 ・文化財教育普及事業 など

基本目標Ⅳ 生涯活躍できるまちづくり

(1) 基本的方向

基本目標「生涯活躍できるまちづくり」では、すべての世代が安心して暮らし、互いに支え合いながら、自らの役割を担い、活躍できる地域社会の構築が必要となります。ここでは「福祉の充実」「健康づくりの推進」「みんなでまちづくりの推進」を位置付け、高齢者が地域社会で生活・活躍しやすいまちづくり、住民が主体的に参画できるまちづくりを目指した取り組みを中心に進めていきます。

(2) 数値目標

対象項目	基準値(令和5年度)	目標値(令和11年度)
「南アルプス市には、生活に困ったときに相談する行政の窓口がある」と思う市民の評価	3.5pt	3.7pt
「南アルプス市では、健康づくりがしやすい環境が整っている」と思う市民の評価	3.4pt	3.6pt
「南アルプス市では、まちづくりの取り組みへの参加が進んでいる」と思う市民の評価	3.2pt	3.3pt

(3) 具体的な施策と主な取組内容

《施策8 福祉の充実》

「福祉の充実」では、年齢や障がいの有無に関わらず、地域の中でそれぞれが役割を担い支え合うことで、誰もが自分らしく豊かで充実した人生を過ごせる環境を作り、孤独や孤立による困窮を防ぐために、地域のセーフティネット強化、重層的支援の推進、持続的な福祉・介護サービスの確保を進めます。

(主な取組内容) ① 地域福祉の充実 ② 福祉総合相談体制の推進
③ 高齢者福祉の充実 ④ 障がい者福祉の充実

《施策9 健康づくりの推進》

「健康づくりの推進」では、講演会や健康教室の実施、各種健診等の取り組みを通して市民の健康意識の向上と維持を図ります。また、安心して医療を受けられる体制を整備し、かつ適正受診の理解を促進します。あわせて関係機関と連携し地域医療の維持に努めます。

(主な取組内容) ⑤ 健康づくりの推進 ⑥ 医療福祉の充実

《施策10 みんなでまちづくりの推進》

「みんなでまちづくりの推進」では、自治会への加入促進に向けた取り組みを進め、自治会活動への参加を呼び掛けます。また、まちづくりへの意識を醸成し、地域で活動できる拠点を充実にするとともに、活躍できる多様な人材の発掘、育成を推進します。加えて、多様性を尊重し、ジェンダー平等や文化理解を深め、市民相互の連携をもって、地域課題の解決に向けた主体的な活動を支援することで活力あふれる地域力の醸成に努めます。

(主な取組内容) ⑦ 多様性社会の構築 ⑧ 地域コミュニティの充実
⑨ みんなでまちづくりの推進

重点取組	ともに生き支え合う、健康と幸せのまちの実現と みんなでまちづくりの場と機会の創出に関する取り組み	
事業例	・生活支援体制整備事業 ・CSW 配置事業 ・子ども若者ささえ愛基金事業 ・幸せ実感 南アルプス市健康リーグ事業 ・健診(検診)事業 ・救急医療体制整備運営支援事業	・救急医療確保対策事業 ・地域自殺対策強化事業 ・男女共同参画啓発事業 ・ハーモニーフォーラム開催事業 ・協働支援テーマ型活動助成事業 ・地域自治会活動事業 など

基本目標Ⅴ 魅力ある住みたいまちづくり

(1) 基本的方向

本市は、現在大きな転機を迎えています。fumotto 南アルプスやリニア中央新幹線の開業などは、我々の生活を**はじめ**社会全体に大きな変革をもたらすものです。これらの変化は、課題を伴う一方で、本市の更なる成長と発展を実現する絶好のチャンスとも言えます。この好機を逃すことなく、地域の魅力をより一層高めていく必要があります。

基本目標「魅力ある住みたいまちづくり」では、「住環境の整備」と「持続可能なまちづくりの推進」を具体的な施策として掲げています。これにより、自然環境や社会基盤をしっかりと守り育てながら、次世代に健全かつ魅力ある地域を引き継ぐことを目指します。また、こうした取り組みを通じて、未来を築く力強い一歩を踏み出すための基盤を整備します。これにより、市民全員が安心して暮らせる地域社会を形成し、誰もが暮らしやすく誇りを持てるまちを目指していきます。

(2) 数値目標

対象項目	基準値(令和5年度)	目標値(令和11年度)
「私の暮らしている地域では、公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる」と思う市民の評価	2.2pt	2.6pt
「南アルプス市では、防災対策がしっかりしている」と思う市民の評価	3.5pt	3.6pt
「南アルプス市では、身近に自然を感じることができる」と思う市民の評価	4.3pt	4.3pt

(3) 具体的な施策と主な取組内容

《施策11 住環境の整備》

「住環境の整備」では、道路、河川、公園、上下水道の整備やごみの適正処理を通じて、快適で安心できる都市空間と生活環境を創出します。また、高齢者人口の増加が見込まれるなか、中部横断自動車道の開通やリニア中央新幹線の開業などの影響も見据えつつ、コミュニティバス活用などの地域の特性やニーズに対応した新たな地域公共交通網の形成を図ります。また、地域の課題である空き家問題に対しては、活用や解消に向けた総合的な対策を推進するとともに、企業誘致に伴う人口増を見込む住環境の整備を進めます。

(主な取組内容) ① 都市空間の構築 ② 道路・交通基盤の整備
③ 上下水道の整備

《施策12 持続可能なまちづくりの推進》

「持続可能なまちづくりの推進」では、災害や犯罪に強いまちづくりを目指し、地域や団体と連携して防災・防犯体制を整備します。また、ユネスコエコパークの理念のもと、自然や農地の保全と資源活用を進めるとともに、地域産業を活性化します。さらに、脱炭素化の推進、少子高齢化や災害激甚化への対応、環境負荷の少ないまちづくりに向けた都市機能の再配置とネットワーク化を推進します。

(主な取組内容) ④ 防災体制の整備 ⑤ 消防力の充実 ⑥ 防犯対策・交通安全の推進
⑦ 自然との共生 ⑧ 生活環境の保全

重点取組	社会変化に対応した住環境と交通インフラの整備に関する取り組み	
事業例	・交通政策推進事業 ・路線バス支援事業 ・空き家バンク事業 ・住宅リフォーム等総合支援事業 ・防災リーダー養成講座協働事業 ・自然エネルギー導入促進事業	・水力発電所維持管理事業 ・エコライフ促進事業 ・ユネスコエコパーク推進事業 ・楡形山アヤマ保全対策事業 ・希少動植物環境保全事業 など

横断的取組 新しい時代の流れを力にするまちづくり

(1) 基本方針

市総合戦略を効果的に推進するためには、各分野が個別に取り組むだけではなく、分野を超えた横断的な取り組みが必要となります。具体的には「デジタル技術の活用」と「時代に即した自治体運営」の2つの取り組みについて分野を横断し、各施策にアプローチすることで、目標達成に寄与していきます。

《横断的取組① デジタル技術の活用》

デジタル技術を活用することで、公共サービスの向上や利便性の拡大に向けた仕組みづくりが可能となります。具体的には、マイナンバーカードを活用した行政手続きや新たなコミュニケーション方法を創出するなど、市民が利用しやすい環境を整え、かつ業務の効率化を図ることで質の高い行政サービスを提供することが**できます**。

また、地域社会においても様々な課題に対応することで、生活の質の向上や地域経済の活性化、環境負荷の軽減など、地域の魅力を幅広く高める力を持っています。

以上のことを踏まえ、デジタル技術を活用し、公共サービスの充実化を図ることで、すべての市民が、その利便性を享受できる快適で住みよいまちを目指します。

活用事例	・図書館 DX による「いつでも」「どこでも」「だれでも」読書を楽しむことができる環境整備 ・公立保育所 ICT 化による保護者の利便性・満足度向上及び保育士の負担軽減 ・キャッシュレス決済の導入による窓口手続きの簡素化 ・採点システムの導入に伴う適切な指導・学習機会の提供 ・スマート農業による農業基盤の充実と整備 ・電子母子手帳アプリによる子育て支援の充実と育児情報の一元化 ・デジタル教材を活用した個別学習環境の充実 ・デジタル技術活用の担い手育成のための講習会やワークショップ等の実施 ・スマートフォンのアプリを活用した健康づくり(ウォーキングなど) ・AI デマンド、MaaS、自動運転等の導入による次世代型移動サービスの充実 ・行政窓口の DX 化による住民サービスの向上と業務効率化の実現 など
------	--

《横断的取組② 時代に即した自治体運営》

将来にわたって持続可能で安定した行政サービスを提供していくためには、限られた財源を有効に活用した行政運営を図っていく必要があります。社会変化に応じた公共施設の再配置、行財政改革を徹底し、効率的な歳出構造の見直しを進めていきます。また、国・県の交付金を積極的に活用し、ふるさと納税や企業版ふるさと納税など、税収以外による財源を確保することで安定的な財政運営を行います。

包括連携協定等を通じて企業や大学などと連携を図ることで、民間や研究機関のノウハウやリソースを本市の活性化につなげていくなど民間活力の導入を進めていきます。また、複雑・多様化する行政課題や市民ニーズに対応できるよう、地域の専門家やデジタル人材、プロジェクトマネージャーなど専門知識を有する外部人材の導入検討を積極的に行うとともに、研修などを通じて職員の資質の向上を図っていきます。

また、南アルプス IC 周辺エリアを始め、全市的観点から秩序ある土地利用へ適切な誘導を図り、急速な社会・環境等の変化に迅速かつ効果的に対応できる自治体運営を実現します。

○体系図

地域ビジョン（目指す姿）

し い ち	基本目標Ⅰ やりたい仕事ができるまちづくり	
	施策1 地域産業の振興	①商工業の振興
	施策2 企業誘致の推進	②農林業の振興
		③企業誘致の推進

ひ と	基本目標Ⅱ 行ってみたくなるまちづくり	
	施策3 観光の振興	①観光の振興
	施策4 シティプロモーションの推進	②シティプロモーションの推進
	施策5 移住・定住人口の拡大	③交流と定住促進

ひ と	基本目標Ⅲ 子育てしやすいまちづくり	
	施策6 子育て支援の充実	①子育て支援の充実・②保育環境の充実・③子ども家庭相談体制の充実
	施策7 教育の充実	④母子保健の充実・⑤青少年健全育成の推進・⑥生涯学習の推進
		⑦ふるさと資源の保全と活用・⑧学校教育の充実

ひ と	基本目標Ⅳ 生涯活躍できるまちづくり	
	施策8 福祉の充実	①地域福祉の充実・②福祉総合相談体制の推進・③高齢者福祉の充実
	施策9 健康づくりの推進	④障がい者福祉の充実・⑤健康づくりの推進・⑥医療福祉の充実
	施策10 みんなでまちづくりの推進	⑦多様性社会の構築・⑧地域コミュニティの充実・⑨みんなでまちづくりの推進

ま ち	基本目標Ⅴ 魅力ある住みたいまちづくり	
	施策1 1 住環境の整備	①都市空間の構築・②道路・交通基盤の整備・③上下水道の整備
	施策1 2 持続可能なまちづくりの推進	④防災体制の整備・⑤消防力の充実・⑥防犯対策・交通安全の推進
		⑦自然との共生・⑧生活環境の保全

し い ち	横断的取組 新しい時代の流れを力にするまちづくり	
	① デジタル技術の活用	
	② 時代に即した自治体運営	

○数値目標について

市総合戦略では、基本的には、市総合計画で目標値としている「まちづくり指標 (Well-being 指標)」を数値目標として設定します。

《「まちづくり指標 (Well-being 指標)」の考え方》

内閣府が推進する「デジタル田園都市国家構想」では、目指す「心ゆたかな暮らし」(Well-being:ウェルビーイング)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)の実現に向けた取り組みの指標として、地域幸福度 (Well-being:ウェルビーイング) 指標が提案されています。

その中で、アンケート調査によって把握する主観指標のうち、市総合計画における各施策に対応する 41 項目を選び、本市の Well-being 指標として設定しています。それにより、各施策の推進に伴う市民の本市の暮らしに対する満足度を把握します。

なお、Well-being 指標は、本市が毎年実施する市民アンケートにより市民が 1～5 段階で評価し、その結果の平均値により評価を行います。

○「まちづくり指標 (Well-being 指標)」における目標値の設定

Well-being 指標 基準値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
4.0 以上	現状維持または微増
3.0 以上 4.0 未満	+0.1pt
3.0 未満	+0.2pt

※原則として上記の考え方にに基づき目標値を設定しています。ただし、端数処理の関係で上記の考え方を上回る場合があります。

○重要業績評価指標 (KPI)

基本目標	施策No	主な取組	指標名	指標の説明	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)	市総合計画 施策番号
やりたい仕事ができる まちづくり 【基本目標Ⅰ】	1	商工業の振興	「南アルプス市は、日常の買い物にまったく不便がない」と思う市民の評価	生活環境に対する市民の満足度を示す	3.4	3.6	19
			「暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある」と思う市民の評価	新規創業や挑戦、地域経済の活性化に対する市民の満足度を示す	2.7	2.9	19
		農林業の振興	「南アルプス市では、農業活動が積極的に行われている」と思う市民の評価	農業施策に対する市民の満足度を示す	3.7	3.8	18
	2	企業誘致の推進	「南アルプス市では、やりたい仕事を見つけやすい」と思う市民の評価	市内での就業に対する満足度を示す	2.6	2.8	20
行ってみたくなる まちづくり 【基本目標Ⅱ】	3	観光の振興	「南アルプス市には、観光資源が豊富で誇らしい」と思う市民の評価	観光振興の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.0	3.2	21
	4	シティプロモーションの推進	「私は、南アルプス市に対して愛着を持っている」と思う市民の評価	地域の魅力に対する市民の満足度を示す	3.8	4.0	22
	5	交流と定住促進	「私は、南アルプス市に対して愛着を持っている」と思う市民の評価	地域の魅力に対する市民の満足度を示す	3.8	4.0	22
子育てしやすいまちづくり 【基本目標Ⅲ】	6	子育て支援の充実	「南アルプス市では、子育て支援・補助が手厚い」と思う市民の評価	子育て支援の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.6	3.7	14
		保育環境の充実	「南アルプス市では、安心して子どもを預けられる環境がある」と思う市民の評価	子育て支援の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.5	3.7	13
		こども家庭相談体制の充実	「南アルプス市には、子育てに困ったときに相談する行政の窓口がある」と思う市民の評価	子育て支援に関する相談窓口についての認知度を示す	3.5	3.7	15
		母子保健の充実	「南アルプス市には、安心して妊娠・出産・育児ができる環境がある」と思う市民の評価	子育て支援の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.3	3.4	16
	7	青少年健全育成の推進	「南アルプス市には、青少年が健やかに成長できる環境がある」と思う市民の評価	青少年健全育成の活動に対する市民の満足度を示す	3.1	3.3	17
			「私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」と思う市民の評価	若者の活躍しやすい雰囲気の醸成を示す	2.7	2.9	17
		生涯学習の推進	「南アルプス市では、学びたいことを学べる機会がある」と思う市民の評価	多様な学びができることに対する市民の満足度を示す	3.0	3.2	28
		ふるさと資源の保全と活用	「南アルプス市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」と思う市民の評価	歴史・芸術資源等の活用に対する市民の満足度を示す	3.0	3.2	29
		学校教育の充実	「南アルプス市では、教育環境が整っている」と思う市民の評価	教育環境に対する市民の満足度を示す	3.5	3.7	30

基本目標	施策No	主な取組	指標名	指標の説明	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)	市総合計画 施策番号
生涯活躍できるまちづくり 【基本目標Ⅳ】	8	地域福祉の充実	「南アルプス市には、困ったときに相談できる人が身近にいる」と思う市民の評価	地域共生社会の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.3	3.4	7
		福祉総合相談体制の推進	「南アルプス市には、生活に困ったときに相談する行政の窓口がある」と思う市民の評価	相談支援に対する市民の満足度を示す	3.5	3.7	8
		高齢者福祉の充実	「南アルプス市では、高齢者の介護・福祉施設のサービスが受けやすい」と思う市民の評価	高齢者福祉の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.4	3.5	9
		障がい者福祉の充実	「南アルプス市では、障がい者の支援サービスが受けやすい」と思う市民の評価	障がい者福祉の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.3	3.4	10
	9	健康づくりの推進	「南アルプス市では、健康づくりがしやすい環境が整っている」と思う市民の評価	健康増進の取り組みに関する市民の満足度を示す。	3.4	3.6	11
		医療福祉の充実	「南アルプス市は、医療機関が充実している」と思う市民の評価	医療体制の充足に対する市民の満足度を示す	3.3	3.5	12
	10	多様性社会の構築	「南アルプス市には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある」と思う市民の評価	多文化、多様性社会の取り組みの満足度を示す	2.9	3.1	3
			「南アルプス市には、女性が活躍しやすい雰囲気がある」と思う市民の評価	男女共同参画の取り組みに対する満足度を示す	2.9	3.2	3
		地域コミュニティの充実	「私は、同じ区や組に住む人たちを信頼している」と思う市民の評価	近隣住民や地域との多様なつながりの満足度を示す	3.6	3.7	1
		みんなでまちづくりの推進	「南アルプス市では、まちづくりの取り組みへの参加が進んでいる」と思う市民の評価	まちづくりへの参加に対する市民の満足度を示す。	3.2	3.3	2
魅力ある住みたいまちづくり 【基本目標Ⅴ】	11	都市空間の構築	「南アルプス市には、まちなか、公園、川沿い等で心地よく歩ける場所がある」と思う市民の評価	都市空間整備の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.6	3.8	26
		道路・交通基盤の整備	「南アルプス市では、歩道や信号が整備されていて安心である」と思う市民の評価	交通安全の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.3	3.4	25
			「私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる」と思う市民の評価	公共交通整備の取り組みに対する市民の満足度を示す	2.2	2.6	25
			「南アルプス市は、道路網が十分に整備されている」と思う市民の評価	道路網整備に対する市民の満足度を示す	3.3	3.5	25
		上下水道の整備	「南アルプス市の水道の水がおいしいと感じる」と思う市民の評価	生活用水の利用に対する市民の満足度を示す	3.7	3.9	27
	12	防災体制の整備	「南アルプス市では、防災対策がしっかりしている」と思う市民の評価	防災対策の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.5	3.6	4
		消防力の充実	「南アルプス市では、消防・救急体制が整っている」と思う市民の評価	消防・救急活動に対する市民の満足度を示す	3.5	3.6	5
		防犯対策・交通安全の推進	「南アルプス市は、防犯対策(交番・街灯・住民の見守り等)が整い、治安がよい」と思う市民の評価	防犯対策の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.4	3.5	6
		自然との共生	「南アルプス市では、身近に自然を感じることができる」と思う市民の評価	地域の魅力に対する市民の満足度を示す	4.3	4.3	23
		生活環境の保全	「南アルプス市では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」と思う市民の評価	環境問題や環境保全の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.7	3.8	24
新しい「横に時断す代的な流れ」づくり	①・②	時代に即した自治体運営	「南アルプス市では、行政サービスのデジタル化が進んでいる」と思う市民の評価	行政サービスのデジタル化に対する市民の満足度を示す	3.1	3.2	32
	②	健全な財政の維持	「南アルプス市では、予算が適切に使われている」と思う市民の評価	市の予算執行に対する市民の満足度を示す	3.1	3.2	31
	②	職員資質の向上	「暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う」と思う市民の評価	行政の取り組みに対する市民の満足度を示す	3.2	3.4	33
			「南アルプス市の職員は信頼できる」と思う市民の評価	職員の業務に対する市民の満足度を示す	3.4	3.5	33